

科目名 (英)	歯科技工士関係法規 Dental Technologist Applicable Laws and Regulations	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	富野 浩子
		授業形態	講義		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科技工士科午後部	単位	1				
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、歯科診療所技工室での実務経験を有した教員が、実例を交えながら基本的な法律の知識について授業する。						
目的	歯科技工士関係法規を習得する。						
科目概要	歯科技工士として業務を行うために必要な「歯科技工士法」と「歯科医療関係法規」について事例を交えながら理解する。						
到達目標	・歯科技工士に必要な衛生行政の概要を理解する。 ・歯科技工士法について、様々な事例に適用して捉えられるようになる。 ・医療法、歯科医師法、歯科衛生士法の概要を理解する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はG PA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「歯科技工管理学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】 毎回の授業内で、講義内容の確認小テストを行う。 その小テストに向けてポイントの復習を行う。		
参考図書	歯科技工士国家試験問題集(医歯薬出版)						
特記事項	国家試験科目(学説試験)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	衛生行政	講義	衛生行政の概要について理解する。 憲法第25条について理解する。
2	歯科技工士法、免許－1	講義	歯科技工士制度の沿革、歯科技工士法の目的について理解する。 歯科技工士免許、申請書類、欠格事由について条文を覚え、理解する。
3	免許－2	講義	歯科技工士名簿、名簿の登録事項について条文を覚え、理解する。 業務従事者届出事項について条文を覚え、理解する。
4	試験、業務	講義	歯科技工士試験、受験資格について理解する。 歯科技工指示書、守秘義務について条文を覚え、理解する。
5	歯科技工所	講義	歯科技工所の開設、届出事項、管理者の義務について理解する。 広告の制限について条文を覚え、理解する。
6	歯科医療関係法規	講義	医療法、医薬品、医療機器等法(薬機法)について概要を理解する。 歯科医師法、歯科衛生士法について概要を理解する。
7	歯科技工士法 まとめ	講義	歯科技工士法・免許、試験、業務、歯科技工所についてまとめ講義を通じて、理解を深める。
8	定期試験、試験解説	講義	1回～7回までに学習した内容を、今までの小テストを活用して復習する。

科目名 (英)	セラミック加工実習 Basic Training of Ceramic Processing Techniques	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 三知長
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	60	授業回数	30	開講区分	前期
		単位	2				
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有した経験豊富な教員が、セラミック加工について基本的な知識と技術を身につけられるよう授業を行う。						
目的	陶材焼付金属冠のワックスアップ～鋳造までの製作過程を習得する。陶材焼付金属冠のメタル調整～研磨・完成までの製作過程を習得する。						
科目概要	メタルフレームのデザイン、窓開けの手順、高温鋳造について実践し理解を深める。メタルフレームの表面処理法、ポーセレンの取り扱い方、形態修正の手順についての理解を深める。						
到達目標	・陶材焼付金属の製作過程を理解し、製作を進めることができるようになる。 ・陶材焼付金属の窓開けの手順、注意点を理解し、製作を進めることができるようになる。 ・陶材焼付金属のスプルーイング～埋没の注意点を理解し、製作を進めることができるようになる。 ・陶材焼付金属のメタル調整～グレー징ングの手順、注意点を理解し、製作を進めることができるようになる。 ・陶材(ポーセレン)の取り扱い方の注意点を理解し、製作を進めることができるようになる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 「提出作品」と「実技試験」で総合100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】「歯冠修復技工学」の教科書および「ノリタケスーパーポーセレンAAA取扱説明書」を読み、製作工程および注意事項について確認しておくことを推奨する。 【事後学習】取り組んだ実習内容は、指定教科書も併せて学習することを推奨する。		
参考図書	最新歯科技工士教本「歯科技工実習」(医歯薬出版)						
特記事項	ノリタケスーパーポーセレンAAA 取扱説明書 第5版 クラウンブリッジ補綴学(医歯薬出版)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	デッサン 上顎右側第一小臼歯 (15分間) Wax up 上顎右側第一小臼歯 (45分間)	実習	上顎右側第一小臼歯の解剖学的形態について理解を深める。 制限時間内でWax upを完成させる技工術式を習得する。
2	デッサン 下顎左側第二小臼歯 (15分間) Wax up 下顎左側第二小臼歯 (30分間) 〔主溝と外形〕	実習	下顎左側第二小臼歯の解剖学的形態について理解を深める。 制限時間内でWax upを完成させる技工術式を習得する。
3	Wax up 上顎右側中切歯	実習	上顎前歯部Wax upの手順、注意事項について理解を深める。 上顎右側第一小臼歯の彫刻の手順、注意事項を理解する。
4	Wax up 〔修正〕 上顎右側中切歯→上顎右側第一小臼歯	実習	上顎右側中切歯の特徴を理解する。 上顎右側第一小臼歯の特徴を理解する。
5	シリコーンコア採得 〔上顎右側中切歯〕 Wax up 下顎左側第二小臼歯 〔修正〕	実習	コア採得の意味と採得方法を理解する。 下顎左側第二小臼歯の特徴を理解する。
6	窓開け 上顎右側中切歯	実習	メタルボンドクラウンの作業工程、注意事項について理解する。 前歯部メタルボンドクラウンの窓開けの手順、注意事項について理解する。
7	窓開け 下顎左側第二小臼歯	実習	メタルボンドクラウンの作業工程、注意事項について理解する。 臼歯部メタルボンドクラウンの窓開け(フルベークタイプ)の手順について理解する。
8	窓開け 上顎右側第一小臼歯	実習	メタルボンドクラウンの作業工程、注意事項を理解する。 臼歯部メタルボンドクラウンの窓開け(ベニヤタイプ)の手順について理解する。
9	窓開け 〔修正〕	実習	前歯部メタルボンドクラウンの窓開けの形態について理解する。 臼歯部メタルボンドクラウンの窓開けの形態について理解する。
10	窓開け 〔修正〕	実習	窓開けの注意事項を理解する。
11	スプルーイング (試験体)	実習	メタルボンドクラウンの作業工程、注意事項について理解する。 ハンドル付与～スプルーイングの注意事項について理解する。
12	マージンチェック～スプルーイング	実習	メタルマージンとポーセレンマージンの違いについて理解する。 マージンチェックの手順、注意事項について理解する。
13	スプルーイング～円錐台植立	実習	スプルーイング～円錐台植立の手順、注意事項について理解する。

14	円錐台植立～埋没	実習	円錐台植立～埋没の手順、注意事項について理解する。 リン酸塩系埋没材の使用方法、注意事項について理解する。
15	鑄造体の掘り出し	実習	リン酸塩系埋没材の除去方法の手順、注意事項について理解する。 サンドブラスターの使用方法、注意事項について理解する。

16	スプルーカット～適合チェック	実習	メタルボンドクラウンの作業工程、注意事項について理解する。 スプルーカット～適合チェックの手順、注意事項について理解する。
17	メタル調整	実習	メタル調整の目的について理解する。 メタル調整の手順、注意事項について理解する。
18	メタル調整～フレーム完成 ディギャッシング	実習	メタルフレームの形態について理解する。 ディギャッシングの目的、方法、注意事項について理解する。
19	オペーク築盛・焼成 試験体→上顎右側第一小臼歯の順に	実習	上顎右側中切歯の特徴を理解する。 上顎右側第一小臼歯の特徴を理解する。
20	オペーク築盛・焼成〔上顎右側第一小臼歯〕	実習	オペーク陶材の目的、取り扱い法について理解する。 オペーク陶材の築盛・焼成法について理解する。
21	デンティン色築盛・焼成〔試験体〕 オペーク築盛・焼成 〔上顎右側中切歯・下顎左側第二小臼歯〕	実習	デンティン色陶材の取り扱い法、コンデンス法、焼成法の注意事項について理解する。オペーク陶材の築盛・焼成法について理解する。
22	エナメル色築盛・焼成〔試験体〕 オペーク築盛・焼成〔上顎右側中切歯・下顎左側第二小臼歯〕	実習	エナメル色陶材の取り扱い法、コンデンス法、焼成法の注意事項について理解する。オペーク陶材の築盛・焼成法について理解する。
23	デンティン色築盛・焼成〔上顎右側第一小臼歯〕 オペーク築盛・焼成 〔上顎右側中切歯・下顎左側第二小臼歯〕	実習	デンティン色陶材の取り扱い法、コンデンス法、焼成法の注意事項について理解する。オペーク陶材の築盛・焼成法について理解する。
24	エナメル色築盛・焼成〔上顎右側第一小臼歯〕 オペーク築盛・焼成 〔上顎右側中切歯・下顎左側第二小臼歯〕	実習	エナメル色陶材の取り扱い法、コンデンス法、焼成法の注意事項について理解する。オペーク陶材の築盛・焼成法について理解する。
25	トランスルーセント色築盛・焼成 〔試験体・上顎右側第一小臼歯〕	実習	トランスルーセント色陶材の取り扱い法、コンデンス法、焼成法の注意事項について理解する。
26	形態修正 〔試験体・上顎右側第一小臼歯〕	実習	形態修正の手順、注意事項について理解する。 天然歯の表面性状、再現方法について理解する。
27	追加築盛・焼成 〔試験体・上顎右側第一小臼歯〕	実習	追加築盛・焼成の方法、注意事項について理解する。
28	形態修正 完了 〔試験体・上顎右側第一小臼歯〕	実習	天然歯の表面性状、再現方法について理解する。 グレージングに向けた陶材表面の仕上げ方法について理解する。
29	グレージング 〔試験体・上顎右側第一小臼歯〕	実習	グレージングの手順、注意事項について理解する。
30	メタル研磨・完成 〔試験体・上顎右側第一小臼歯〕	実習	メタルボンドクラウンの作業工程、注意事項について理解する。 メタル研磨の手順、注意事項について理解する。

科目名 (英)	有床義歯応用実習 I Advanced Training of Denture Techniques I	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	若林 誠
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	1				
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での実務経験を有する教員が、その豊富な経験を活かし、金属床義歯製作に必要な基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	講義で学んだ知識と技術を活かし、金属床義歯の製作ができるようになる。						
科目概要	ワックスアップからメタルフレームの研磨完成まで、講義で学んだ知識を基に金属床義歯の製作をする。						
到達目標	・金属床義歯の設計から耐火模型製作までの工程のデモンストレーションを見て製作し、作品を完成させることができるようになる。 ・既製パターンを用いてのワックスアップの方法、注意点を理解し作品を製作することが出来るようになる。 ・コバルトクロム合金の形態修正、研磨の工程、注意点を理解し作品を製作することが出来るようになる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はG PA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 「提出作品」と「実技試験」で総合100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。 ☐ 筆記試験 ☐ 口頭試験 ☒ 実技試験 ☐ 論文 ☐ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】「有床義歯技工学」の教科書を読み、製作工程および注意事項について確認しておくことを推奨する。		
参考図書	適宜紹介する						
特記事項	なし						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	サベイング～設計	実習	サベイング操作を復習し、リンガルバー、RPI、双子鉤を含む金属床フレームの設計を理解する。
2	リリーフ、ブロックアウト	実習	設計に合わせた、作業用模型上での処理(リリーフ、ブロックアウト)について理解する。
3	複印象採得～耐火模型材注入 ／咬合器装着	実習	作業用模型をシリコン印象材で複印象し、高温鑄造用の耐火模型の製作について、それらの工程を理解する。
4	耐火模型乾燥～表面処理 ／咬合器装着	実習	耐火模型の乾燥から表面処理までの操作を理解する。
5	設計転写～ワックスアップ	実習	耐火模型の設計線転写、ワックスアップの手順について理解する。
6	リンガルバーワックスアップ	実習	既製パターンを用いてのリンガルバーのワックスアップ方法を理解する。
7	支台装置ワックスアップ	実習	既製パターンを用いての支台装置、スケルトン部のワックスアップ方法を理解する。
8	ワックスアップ完成～耐火模型トリミング	実習	既製パターンの連結および外フィニッシングラインの形成方法を理解する。
9	スプルーイング～埋没	実習	吸引加圧鑄造用の高温鑄造のスプルー、埋没の方法を理解する。
10	掘り出し～サンドブラスト ～スプルーカット	実習	リン酸塩系埋没材の掘り出し、非貴金属合金のスプルーカット、形態修正について、それらの工程を理解する。
11	形態修正	実習	非貴金属合金の形態修正の方法を理解する。
12	形態修正	実習	非貴金属合金の形態修正の方法を理解する。
13	荒研磨	実習	非貴金属合金の荒研磨の方法を理解する。
14	仕上げ研磨	実習	非貴金属合金の仕上げ研磨の方法を理解する。
15	研磨完成	実習	非貴金属合金の研磨操作、研磨後の処理の方法を理解する。

科目名	有床義歯応用実習Ⅱ	年次	3	必修科目	実務経験	科目責任者	若林 誠
(英)		Advanced Training of Denture TechniquesⅡ	授業形態	実習		有	
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	1				
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での実務経験を有する教員が、その豊富な経験を活かし、金属床義歯製作に必要な基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	講義で学んだ知識と技術を活かし、金属床義歯の製作ができるようになる。						
科目概要	人工歯配列、歯肉形成、レジン研磨まで、講義で学んだ知識を基に金属床義歯の製作をする。						
到達目標	・金属フレーム上での流し込みレジン用の人工歯排列の方法、注意点を理解し、製作することができるようになる。 ・金属フレーム上での流し込みレジン用の歯肉形成の方法、注意点を理解し、製作することができるようになる。 ・金属フレーム上での流し込みレジン用の形態修正、研磨の方法や注意点を理解し、製作することができるようになる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はG PA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 「提出作品」と「実技試験」で総合100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。 ☐ 筆記試験 ☐ 口頭試験 ☒ 実技試験 ☐ 論文 ☐ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版)			事前事後学習とその内容	【事前学習】「有床義歯技工学」の教科書を読み、製作工程および注意事項について確認しておくことを推奨する。		
参考図書	適宜紹介する						
特記事項	なし						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	フレーム模型試適	実習	金属フレームの作業用模型適合について理解する。
2	人工歯排列～削合	実習	流し込みレジン法のための人工歯排列と削合の工程を理解する。
3	削合～歯肉形成	実習	流し込みレジン法のための削合と歯肉形成の工程を理解する。
4	歯肉形成	実習	流し込みレジン法のための歯肉形成について理解する。
5	歯肉形成～コア採得準備	実習	シリコーンを用いたコア採得について理解する。
6	注入口付与～コア製作	実習	流し込みレジン法の注入口付与および、コア採得の工程を理解する。
7	流蠟～レジン注入準備	実習	シリコーンコアを用いた流し込み法について、流蠟操作方法を理解する。
8	レジン注入～重合	実習	流し込み方法、重合の方法を理解する。
9	注入口カット～形態修正	実習	流し込みレジンの形態修正の方法を理解する。
10	荒研磨	実習	流し込みレジンの荒研磨のポイントを理解する。
11	中研磨	実習	流し込みレジンの中研磨のポイントを理解する。
12	砂研磨	実習	流し込みレジンの砂研磨のポイントを理解する。
13	仕上げ研磨	実習	流し込みレジンの仕上げ研磨のポイントを理解する。
14	研磨完成	実習	流し込みレジンの艶出し、研磨後の処理についてポイントを理解する。
15	まとめ・振り返り	実習	金属床義歯の製作工程を振り返り、レポートを作成することができる。

科目名 (英)	セラミック応用実習 Advanced Training of Ceramic Processing Techniques	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	吉澤 和之
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	1				
講師紹介	審美歯科技工を専門とし、業界を代表する講師が豊富な実務経験を活かし、審美技工に必要な知識や理論について講義およびデモンストレーションを交えて授業を行う。						
目的	陶材焼付金属冠の製作法、及びフルジルコニアクラウンのステイン法について、より臨床的な技法を習得する。						
科目概要	マージンポーセレン法や内部ステインテクニック、表面性状の再現方法、ジルコニアの取り扱いについて最前線の審美技術を実践する。						
到達目標	・陶材焼付金属の製作過程を理解する。 ・マージンポーセレン法の手順、注意点を理解する。 ・内部ステインテクニックの手順、注意点を理解する。 ・ジルコニアクラウンのステインテクニックについて理解する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はG PA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 「提出作品」と「実技試験」で総合100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	配布資料「ポーセレン実習テキスト」(オリジナル)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】「歯冠修復技工学」の教科書および「ノリタケスーパーポーセレンAAA取扱説明書」を読み、製作工程および注意事項について確認しておくことを推奨する。 【事後学習】取り組んだ実習内容は、指定教科書も併せて学習することを推奨する。		
参考図書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版)						
特記事項	ノリタケスーパーポーセレンAAA 取扱説明書 最新歯科技工士教本「歯科技工実習」クラウンブリッジ補綴学(医歯薬出版)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	メタルボンドクラウンの製作レクチャー (基礎編)	実習	基本的なメタルボンドクラウンの作業工程、注意事項について理解する。
2	マージンポーセレン築盛・焼成 〔上顎右側中切歯〕	実習	マージンポーセレンの目的、取り扱い法について理解する。 マージンポーセレン法の手順、注意事項について理解する。
3	デンティン・エナメル築盛・焼成 〔上顎右側中切歯〕	実習	内部ステインの目的、取り扱い法について理解する。 デンティン・エナメル陶材の築盛・焼成法の手順、注意事項について理解する。
4	内部構造付与 〔上顎右側中切歯〕	実習	デンティン・エナメル陶材の築盛・焼成法の手順、注意事項について理解する。 内部構造の形態、付与方法、注意事項について理解する。
5	デンティン・エナメル築盛・焼成 〔上顎右側中切歯〕	実習	デンティン・エナメル陶材の築盛・焼成法の手順、注意事項について理解する。
6	内部構造付与 〔上顎右側中切歯〕	実習	内部構造の形態、付与方法、注意事項について理解する。
7	内部構造付与～内部ステイン 〔上顎右側中切歯〕	実習	内部構造の形態、付与方法、注意事項について理解する。 内部ステインの目的、築盛・焼成法について理解する。
8	ラスター陶材 築盛・焼成 〔上顎右側中切歯〕	実習	ラスター陶材の特徴、築盛・焼成法の注意事項について理解する。 クリーミーエナメル陶材の特徴、築盛・焼成法について理解する。
9	ラスター陶材 築盛・焼成 〔上顎右側中切歯〕	実習	ラスター陶材の特徴、築盛・焼成法の注意事項について理解する。 クリーミーエナメル陶材の特徴、築盛・焼成法について理解する。
10	形態修正 〔上顎右側中切歯〕	実習	形態修正の手順、注意事項について理解する。 天然歯の表面性状、再現方法について理解する。
11	表面仕上げ～グレージング～研磨 完成 〔上顎右側中切歯〕	実習	天然歯の表面性状、再現方法について理解する。 グレージングに向けた陶材表面の仕上げ方法について理解する。
12	メタルボンドクラウンの製作レクチャー (臨床編)	実習	臨床的なメタルボンドクラウンの作業工程、注意事項について理解する。
13	ステイン 〔下顎左側第二小臼歯〕	実習	天然歯の表面性状、再現方法について理解する。 ジルコニアのステイン法および仕上げ方法について理解する。
14	ステイン 〔下顎左側第二小臼歯〕	実習	天然歯の表面性状、再現方法について理解する。 ジルコニアのステイン法および仕上げ方法について理解する。
15	メタル研磨 完成〔上顎右側中切歯〕 グレーズ完成下顎左側第二小臼歯〕	実習	メタルボンドクラウンの作業工程、注意事項について理解する。 ジルコニアクラウンの作業工程、注意事項について理解する。

科目名 (英)	課題研究実習Ⅰ Research and Professional PlacticeⅠ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	若林 誠
		授業形態	実習		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	
学科・コース	歯科技工士科午後部	単位	1				
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での実務経験を有する教員が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	今までに修得した歯科技工の技術と知識を総合的に習得する。 様々な症例に適応した技工技術の応用方法を習得する。						
科目概要	症例に合わせた対処方法やこれまで学んだ技術の応用について課題提示し、製作していく。						
到達目標	・提示された課題に基づいて、歯科技工の基礎知識を応用し製作することができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はG PA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 「提出作品」と「レポート評価」で総合100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。 ☐ 筆記試験 ☐ 口頭試験 ☒ 実技試験 ☐ 論文 ☒ レポート						
教科書	各専門科目の教科書及び実習帳、ほか			事前事後 学習と その内容	【事前学習】「教科書」、「実習プリント」、「専門書」などを課題に合わせて調べることを推奨する。 【事後学習】取り組んだ実習内容は、指定教科書も併せて学習することを推奨する。		
参考図書	なし						
特記事項	なし						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	課題製作(歯冠修復、有床義歯)	実習	実習科目(修復、有床)より提示された課題を指定時間内に製作し、製作手順や注意ポイントについて理解を深める。
2	課題製作(歯冠修復、有床義歯)	実習	実習科目(修復、有床)より提示された課題を指定時間内に製作し、製作手順や注意ポイントについて理解を深める。
3	課題製作(歯冠修復、有床義歯)	実習	実習科目(修復、有床)より提示された課題を指定時間内に製作し、製作手順や注意ポイントについて理解を深める。
4	課題製作(歯冠修復、有床義歯)	実習	実習科目(修復、有床)より提示された課題を指定時間内に製作し、製作手順や注意ポイントについて理解を深める。
5	課題製作(歯冠修復、有床義歯)	実習	実習科目(修復、有床)より提示された課題を指定時間内に製作し、製作手順や注意ポイントについて理解を深める。
6	課題製作(歯冠修復、有床義歯)	実習	実習科目(修復、有床)より提示された課題を指定時間内に製作し、製作手順や注意ポイントについて理解を深める。
7	課題製作(歯冠修復、有床義歯)	実習	実習科目(修復、有床)より提示された課題を指定時間内に製作し、製作手順や注意ポイントについて理解を深める。
8	課題製作(歯冠修復、有床義歯)	実習	実習科目(修復、有床)より提示された課題を指定時間内に製作し、製作手順や注意ポイントについて理解を深める。
9	課題製作(歯冠修復、有床義歯)	実習	実習科目(修復、有床)より提示された課題を指定時間内に製作し、製作手順や注意ポイントについて理解を深める。
10	課題製作(歯冠修復、有床義歯)	実習	実習科目(修復、有床)より提示された課題を指定時間内に製作し、製作手順や注意ポイントについて理解を深める。
11	課題製作(歯冠修復、有床義歯)	実習	実習科目(修復、有床)より提示された課題を指定時間内に製作し、製作手順や注意ポイントについて理解を深める。
12	課題製作(歯冠修復、有床義歯)	実習	実習科目(修復、有床)より提示された課題を指定時間内に製作し、製作手順や注意ポイントについて理解を深める。
13	課題製作(歯冠修復、有床義歯)	実習	実習科目(修復、有床)より提示された課題を指定時間内に製作し、製作手順や注意ポイントについて理解を深める。
14	課題製作(歯冠修復、有床義歯)	実習	実習科目(修復、有床)より提示された課題を指定時間内に製作し、製作手順や注意ポイントについて理解を深める。
15	課題製作(歯冠修復、有床義歯)	実習	実習科目(修復、有床)より提示された課題を指定時間内に製作し、製作手順や注意ポイントについて理解を深める。

科目名 (英)	歯科技工総合実習 I Training of Dental Technology I	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	若林 誠
		授業形態	実習		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	
学科・コース	歯科技工士科午後部	単位	1				
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院での実務経験を有した経験豊富な教員が、歯科技工について基本的な知識と技術を身につけられるよう授業を行う。						
目的	歯のデッサン、歯型彫刻、全部金属冠のワックスアップ、全部床義歯前歯部排列の基礎技術力を習得する。						
科目概要	歯のデッサン、歯型彫刻、全部金属冠のワックスアップ、全部床義歯前歯部排列を習得する。						
到達目標	・決められた制限時間内での作品の完成ができるようになる。 ・歯のデッサン、歯型彫刻の方法、注意点を理解し、実習を進めることができるようになる。 ・操作の復習を行い手順の再確認ができるようになる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はG PA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 「実技試験」で総合100点満点とする。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	配布資料 歯の解剖学 実習プリント(オリジナル)				事前事後 学習と その内容	【事前学習】歯型彫刻・ワックスアップ・人工歯排列の項目の「実習プリント」を読み、製作工程および注意事項について確認しておくことを推奨する。 【事後学習】取り組んだ実習内容は、指定教科書も併せて学習することを推奨する。	
参考図書	最新歯科技工士教本「歯科技工実習」(医歯薬出版)						
特記事項	配布資料 歯冠修復技工学 有床義歯技工学 実習プリント(オリジナル)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	実技トレーニング① タイムトライアル①	実習	制限時間を設定して、完成見本無しで、実技タイムトライアルを実施する。 実技の理解度、制限時間を意識して操作を行う。
2	実技トレーニング② タイムトライアル①復習	実習	①と同様の課題を完成見本を参考にして、実技タイムトライアルを実施する。 実技の理解度、制限時間を意識して操作を行う。
3	実技トレーニング③ 歯型彫刻	実習	石膏彫刻を制限時間内に行う。 歯の形態の特徴を理解を目標とする。
4	振り返り実習①	実習	今までに行ったことのある実習を自ら行い、操作手順を確認する。
5	実技トレーニング④ 歯型彫刻	実習	石膏彫刻を制限時間内に行う。 歯の形態の特徴を理解を目標とする。
6	振り返り実習②	実習	今までに行ったことのある実習を自ら行い、操作手順を確認する。
7	実技トレーニング⑤ 歯型彫刻	実習	石膏彫刻を制限時間内に行う。 歯の形態の特徴を理解を目標とする。
8	振り返り実習③	実習	今までに行ったことのある実習を自ら行い、操作手順を確認する。
9	実技トレーニング⑥ タイムトライアル②	実習	制限時間を設定して、完成見本無しで、実技タイムトライアルを実施する。 実技の理解度、制限時間を意識して操作を行う。
10	実技トレーニング⑦ タイムトライアル②復習	実習	②と同様の課題を完成見本を参考にして、実技タイムトライアルを実施する。 実技の理解度、制限時間を意識して操作を行う。
11	実技トレーニング⑧ 歯型彫刻	実習	石膏彫刻を制限時間内に行う。 歯の形態の特徴を理解を目標とする。
12	振り返り実習④	実習	今までに行ったことのある実習を自ら行い、操作手順を確認する。
13	実技トレーニング⑨ タイムトライアル③	実習	制限時間を設定して、完成見本無しで、実技タイムトライアルを実施する。 実技の理解度、制限時間を意識して操作を行う。
14	実技トレーニング⑩ タイムトライアル③復習	実習	③と同様の課題を完成見本を参考にして、実技タイムトライアルを実施する。 実技の理解度、制限時間を意識して操作を行う。
15	実技トレーニング⑪ 歯型彫刻	実習	石膏彫刻を制限時間内に行う。 歯の形態の特徴を理解を目標とする。

科目名	歯科技工総合実習Ⅱ Training of Dental TechnologyⅡ	年次	3	必修科目	実務経験	科目責任者	若林 誠	
(英)		授業形態	実習		有			
		時間数	30	授業回数	15	開講区分		
学科・コース	歯科技工士科午後部	単位	1				前期	
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、での臨床経験を有した経験豊富な教員が、臨床事例と関連づけて、蠟型採得、人工歯排列・歯肉形成、歯のデッサンや歯型彫刻について指導する。							
目的	卒業後の歯科技工業務を見据えて専門科目の枠を超え、今までの学びを総合的に復習することを目的とする。							
科目概要	全技協実技評価試験出願判定試験の作品についてイートバックを受け実力を確認、今後の課題を理解する。国家試験実地試験で出題される課題の実習トレーニングを行う。実習作品は、評価表を用い自己チェックやフィードバックを受けることにより、実力を確認し今後の課題を理解する。							
到達目標	・全部金属冠の蠟型採得を、制限時間(60分間)内で合格基準以上に完成させることができるようになる。 ・総義歯人工歯排列・歯肉形成を、制限時間(2時間30分間)内で合格基準以上に完成させることができるようになる。 ・指定された歯のデッサンと歯型彫刻の作品を、決められた時間内で合格基準以上に完成させることができるようになる。							
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はG PA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 「実技試験」で総合100点満点とする。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 □ レポート							
教科書	配布資料 歯の解剖学 実習プリント(オリジナル)				事前事後学習とその内容	【事前学習】歯型彫刻・ワックスアップ・人工歯排列の項目の「実習プリント」を読み、製作工程および注意事項について確認しておくことを推奨する。 【事後学習】取り組んだ実習内容は、指定教科書も併せて学習することを推奨する。		
参考図書	配布資料 有床義歯技工学 実習プリント(オリジナル)							
特記事項	配布資料 歯冠修復技工学 実習プリント(オリジナル) 制限時間内で課題が完成できない場合は、自主的に練習をすること。							

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	振り返り実習⑤	実習	今までに行ったことのある実習を自ら行い、操作手順を確認する。
2	実技トレーニング⑫ 歯型彫刻	実習	石膏彫刻を制限時間内に行う。 歯の形態の特徴を理解を目標とする。
3	振り返り実習⑥	実習	今までに行ったことのある実習を自ら行い、操作手順を確認する。
4	実技トレーニング⑬ 歯型彫刻	実習	石膏彫刻を制限時間内に行う。 歯の形態の特徴を理解を目標とする。
5	振り返り実習⑦	実習	今までに行ったことのある実習を自ら行い、操作手順を確認する。
6	実技トレーニング⑭ タイムトライアル④	実習	制限時間を設定して、完成見本無しで、実技タイムトライアルを実施する。 実技の理解度、制限時間を意識して操作を行う。
7	実技トレーニング⑮ タイムトライアル④復習	実習	④と同様の課題を完成見本を参考にして、実技タイムトライアルを実施する。 実技の理解度、制限時間を意識して操作を行う。
8	実技トレーニング⑯ 歯型彫刻	実習	石膏彫刻を制限時間内に行う。 歯の形態の特徴を理解を目標とする。
9	振り返り実習⑧	実習	今までに行ったことのある実習を自ら行い、操作手順を確認する。
10	実技トレーニング⑰ タイムトライアル⑤	実習	制限時間を設定して、完成見本無しで、実技タイムトライアルを実施する。 実技の理解度、制限時間を意識して操作を行う。
11	実技トレーニング⑱ タイムトライアル⑤復習	実習	⑤と同様の課題を完成見本を参考にして、実技タイムトライアルを実施する。 実技の理解度、制限時間を意識して操作を行う。
12	実技トレーニング⑲ タイムトライアル⑥	実習	制限時間を設定して、完成見本無しで、実技タイムトライアルを実施する。 実技の理解度、制限時間を意識して操作を行う。
13	実技トレーニング⑳ 歯型彫刻	実習	石膏彫刻を制限時間内に行う。 歯の形態の特徴を理解を目標とする。
14	振り返り実習⑨	実習	今までに行ったことのある実習を自ら行い、操作手順を確認する。
15	実技トレーニング㉑ 歯型彫刻	実習	石膏彫刻を制限時間内に行う。 歯の形態の特徴を理解を目標とする。

科目名 (英)	キャリアデザインⅢ Career DesignⅢ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	富野 浩子
		授業形態	講義		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	
学科・コース	歯科技工士科午後部	単位	1				
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院での実務経験を有する教員が、ゲスト講師を招き歯科医療界の動向について授業する。						
目的	歯科技工士の業務と歯科技工士の歯科医療における役割について理解し、自らの将来像を明確にする。						
科目概要	自らの将来像を明確にし、それを実現するために必要な情報を収集し学ぶ。問題解決力をコミュニケーションの実践を通じて養う。						
到達目標	歯科医療界の動向について諸事例を元に学び将来像を明確にする。問題解決力やコミュニケーション力を今後のキャリア形成に活用する。進路決定の準備を具体的にし行動に移すことができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はG PA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、レポートで行う。講義毎に課すレポートを各100点満点で採点し、その平均点で評価する。各レポートの提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 ■ レポート						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	【事前学習】歯科医療界の動向や歯科関連企業の会社概要を調べることを推奨する。 【事後学習】授業を踏まえて進路決定を進めていくことを推奨する。		
参考図書	適宜紹介する						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	卒業・国家試験について	講義	歯科技工士学校卒業までの流れ、とその要件、国家試験受験までの流れ、受験資格などの明確にする。
2	勉強方法について	講義	国家試験合格に向けて、実施される模擬試験の勉強の方法を明確にする。
3	就職活動の流れ	講義	歯科医療業界に歯科技工士として就職するときにポイントとなる本校の就職活動の流れ、求人票の見方を紹介する。
4	合同企業説明会	講義	キャリアセンターと連携を取り、歯科技工所の職員を迎え、仕事を紹介する。対話を通じて自らの将来像を明確にする。
5	業界講演を聴講して	講義	職場における自身の役割の変化、ステップアップなどについての講演を通じて歯科技工士としての将来像を明確にすることができるようになる。
6	業界講演を聴講して	講義	職場における自身の役割の変化、ステップアップなどについての講演を通じて歯科技工士としての将来像を明確にすることができるようになる。
7	業界講演を聴講して	講義	職場における自身の役割の変化、ステップアップなどについての講演を通じて歯科技工士としての将来像を明確にすることができるようになる。
8	業界講演を聴講して	講義	職場における自身の役割の変化、ステップアップなどについての講演を通じて歯科技工士としての将来像を明確にすることができるようになる。

科目名 (英)	歯の解剖学総合 Dental Anatomy	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	田村 睦
		授業形態	講義		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科技工士科午後部	単位	1				
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、歯科技工所、歯科医院での臨床経験を有し、教員歴も長い教員が国家試験の分析に基づき歯の解剖学の知識を分かりやすく授業を行う。						
目的	歯科技工士として、歯および歯周組織に関する知識を習得する。						
科目概要	歯の発生機構、硬組織及び歯周組織の構造と経年変化について理解する。						
到達目標	・歯および歯周組織の発生由来、歯冠および歯根の発生機構を理解する。 ・硬組織及び歯周組織の構造と加齢変化について理解する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はG PA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「口腔・顎顔面解剖学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】 毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。 その小テストに向けてポイントの復習を行う。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯の概説・発生の復習	講義	これから勉強する「組織」と深く関連する歯の概説と2年次に履修した発生について復習する。
2	エナメル質	講義	エナメル質の基本的構造、加齢変化について理解する。
3	象牙質	講義	象牙質の基本的構造、加齢変化について理解する。
4	セメント質・硬組織のまとめ	講義	セメント質の基本的構造、加齢変化について理解する。
5	歯根膜・歯槽骨	講義	歯根膜・歯槽骨の基本的構造、加齢変化について理解する。
6	歯 肉	講義	歯肉の基本的構造、加齢変化について理解する。また、歯肉を含めて口腔粘膜の分類を理解する。
7	歯髄、組織の加齢現象	講義	歯髄の基本的構造、加齢変化について理解する。
8	復 習	講義	1回～7回までに学習した内容を、今までの小テストを活用して復習する。

科目名 (英)	歯科理工学総合 Dental Materials Science	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	富野 浩子
		授業形態	講義		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	
学科・コース	歯科技工士科午後部	単位	1				前期
講師紹介	歯科技工士として歯科医院での臨床経験を有する教員が、豊富な経験から現在の業界動向も交えた材料の知識や取り扱い方法を、ICTを積極的に活用し授業を行う。						
目的	製作する歯科技工物に用いる材料に関して、正しい知識と取り扱い方法を習得する。						
科目概要	歯科技工物の製作で使用する材料の種類・組成・性質・取扱い方法について、事例を交えながら理解する。						
到達目標	歯科材料について、長所・短所を理解する。 歯科材料について、取扱いの注意事項について理解する。 歯科材料について、起こりうる失敗例の予防方法について理解する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はG PA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「歯科理工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】1、2年次(あるいは現行の)実習授業で使用了材料を振り返り、取扱いの方法を確認しておく。 【事後学習】学んだ材料については、実習で使用する際に再度取扱いの方法などを振り返りながら取り組むこと。		
参考図書	なし						
特記事項	国家試験科目(学説試験)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯冠用硬質レジン	講義	硬質レジンの組成(フィラー、モノマー、重合開始剤など)について理解する。 硬質レジンの性質、重合の種類について理解する。 金属との結合(機械的維持、化学的接着)について理解する。
2	非貴金属合金	講義	コバルトクロム合金について特性と取扱いを理解する。 チタンおよびチタン合金について特性と取扱いを理解する。 ステンレス鋼について特性と取扱いを理解する。
3	研磨	講義	研磨の意義と目的を理解する。 機械研磨に用いる器具・機械と、砥粒の種類について理解する。 化学研磨(電解研磨)の方法と特徴、利点・欠点について理解する。 研磨効率について理解する。 各種修復物の研磨方法について理解する。
4	陶材・セラミックス1	講義	歯冠用セラミックスの種類(焼成温度による分類、成分による分類)を理解する。 セラミックスの機械的性質と強化方法を理解する。 長石系陶材の組成(長石、石英、カオリン、フラックス、金属酸化物、リューサイト)とその役割を理解する。
5	陶材・セラミックス2	講義	長石質陶材の築盛(練和、築盛、コンデンス)について理解する。 長石質陶材の焼成(焼成過程、気泡、注意点、焼成収縮)について理解する。 金属焼付用陶材(陶材と貴金属の結合、陶材と非貴金属の結合、陶材焼付用合金)について理解する。
6	新しい加工技術	講義	歯科におけるデジタル技術全般について理解する。 CAD/CAMを活用した歯科技工(材料、成形法)を理解する。
7	まとめ講義①	講義	歯冠用硬質レジン、非貴金属合金、研磨、陶材・セラミックス、デジタル化で変わる歯科治療についてまとめ講義を通じて理解を深める。
8	まとめ講義②	講義	歯冠用硬質レジン、非貴金属合金、研磨、陶材・セラミックス、デジタル化で変わる歯科治療についてまとめ講義を通じて理解を深める。

科目名 (英)	有床義歯技工学総合 Denture Techniques	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	若林 誠
		授業形態	講義		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	
学科・コース	歯科技工士科午後部	単位	1				
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での実務経験を有する教員が、その豊富な経験を活かし、有床義歯に必要な知識や理論について講義を行う。						
目的	金属床義歯の製作を通して、有床義歯技工学を総合的に復習し習得する。						
科目概要	金属床義歯の特徴、製作方法、その他有床義歯製作に必要な知識を理解する。						
到達目標	・以前製作したレジン床と比較した、金属床義歯の特徴が理解する。 ・実習授業では製作しない、オーバーデンチャー、ノンクラスプデンチャー、テレスコープ義歯、オルタードキャストについて理解する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はG PA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。		
参考図書	適宜紹介する。				【事後学習】 毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。 その小テストに向けてポイントの復習を行う。		
特記事項	なし						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	金属床義歯－①	講義	金属床義歯とは何か、構造設計と金属床義歯の利点・欠点について理解する。
2	金属床義歯－②	講義	金属床義歯製作について、新たに加わる製作工程について理解する。
3	ケネディ／アイヒナーの分類	講義	ケネディの分類、アイヒナーの分類について理解する。
4	テレスコープ義歯	講義	テレスコープデンチャーについて理解する。
5	オルタードキャスト法	講義	オルタードキャスト法、連結子について理解する。
6	ノンクラスプデンチャー	講義	ノンクラスプデンチャーについて理解する。
7	オーバーデンチャー	講義	オーバーデンチャーについて理解する。
8	まとめ講義	講義	金属床義歯、ケネディ／アイヒナーの分類、オルタードキャスト法、テレスコープ義歯、ノンクラスプデンチャーオーバーデンチャーについて、まとめ講義を通じて理解を深める。

科目名 (英)	歯冠修復技工学総合 Restorative Dentistry	年次	3	必修科目	実務経験	科目責任者	小島 三知長
		授業形態	講義		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	
学科・コース	歯科技工士科午後部	単位	1				
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有した経験豊富な教員が、歯冠修復技工学について基本的な知識を身につけられるよう授業を行う。						
目的	陶材焼付金属冠等の製作に関する理論と技術について習得する。						
科目概要	陶材焼付金属冠の特徴、ポーセレン(陶材)の築盛・焼成、陶材焼付金属冠の製作過程、ジャケットクラウンについての理解を深める						
到達目標	・陶材焼付金属冠の特徴、製作方法、製作上の注意点を理解する。 ・金属、レジン、陶材の特徴を理解する。 ・ジャケットクラウンの特徴、製作方法を理解する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はG PA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。		
参考図書	歯科技工士国家試験問題集(医歯薬出版)				【事後学習】 毎回の授業内で、講義内容の確認小テストを行う。 その小テストに向けてポイントの復習を行う。		
特記事項	配布資料「国試に強くなる本」(オリジナル) 第5版 クラウンブリッジ補綴学(医歯薬出版) 国家試験科目(学説試験)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	陶材焼付金属冠	講義	陶材焼付金属冠(メタルボンドクラウン)の特徴、構造、製作上の注意点について理解する。
2	フレームのデザイン-1	講義	硬質レジン前装冠のフレームとメタルボンドクラウンのフレームの違い、窓開けの注意事項について理解する。
3	フレームのデザイン-2	講義	メタルフレームの表面処理法、メタル調整の方法、ディギャッシングの目的について理解する。
4	前鑑付け法と後鑑付け法	講義	メタルボンドブリッジの前鑑付け法と後鑑付け法について理解する。
5	修復材の加工-1	講義	歯科用合金の所要性質、タイプ別金合金、金銀パラジウム合金、陶材焼付用合金、硬化熱処理、金属元素と融点について理解する。
6	修復材の加工-2	講義	レジン前装と陶材前装の比較、歯科用陶材の組成、各成分とその役割・特徴について理解する。
7	修復材の加工-3 ジャケットクラウン	講義	クラックの原因、コンデンスの目的、コンデンス法の種類について理解する。 ジャケットクラウンの特徴、製作法にいて理解する。
8	定期試験、復習	講義	1回～7回までに学習した内容を、今までの小テストを活用して復習する。

科目名 (英)	総合歯科技工学Ⅱ Dental TechnologyⅡ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	若林 誠
		授業形態	講義		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	
学科・コース	歯科技工士科午後部	単位	2				
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院での実務経験を有する教員が、その豊富な経験を活かし総合的な歯科技工知識について授業を行う。						
目的	卒業後の歯科技工業務を見据えて専門科目の枠を超え、今までの学びを総合的に習得する。						
科目概要	歯科技工士として必要な総合的な基礎力を習得するために、顎口腔機能学、矯正歯科技工学、小児歯科技工学等の模擬試験および解説講義を行い、歯科技工士として必要な知識を総合的に理解する。						
到達目標	・専門科目の枠を超え総合的に知識の定着をさせることができるようになる。 ・問題演習と解説講義を通じて、知識を定着させることができるようになる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はG PA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	新歯科技工士教本(8科目)(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】1年次から使用した教材を読み返し、授業を受けることを推奨する。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科理工学 解説講義	講義	歯科理工学の模擬テスト、解説講義を通じて理解を深める。
2	顎口腔機能学 解説講義	講義	顎口腔機能学のテスト、解説講義を通じて理解を深める。
3	顎口腔機能学 解説講義	講義	顎口腔機能学のテスト、解説講義を通じて理解を深める。
4	矯正歯科技工学 解説講義	講義	矯正歯科技工学のテスト、解説講義を通じて理解を深める。
5	矯正歯科技工学 解説講義	講義	矯正歯科技工学のテスト、解説講義を通じて理解を深める。
6	小児歯科技工学 解説講義	講義	小児歯科技工学のテスト、解説講義を通じて理解を深める。
7	小児歯科技工学 解説講義	講義	小児歯科技工学のテスト、解説講義を通じて理解を深める。
8	歯冠修復技工学 解説講義	講義	歯冠修復技工学の模擬テスト、解説講義を通じて理解を深める。
9	歯の解剖学 解説講義	講義	歯の解剖学の模擬テスト、解説講義を通じて理解を深める。
10	有床義歯技工学 解説講義	講義	有床義歯技工学の模擬テスト、解説講義を通じて理解を深める。
11	模擬試験 解説講義	講義	模擬試験、解説講義を通じて理解を深める。
12	模擬試験 解説講義	講義	模擬試験、解説講義を通じて理解を深める。
13	滋慶学園統一模擬試験 解説講義	講義	滋慶学園統一の模擬試験、解説講義を通じて理解を深める。
14	滋慶学園統一模擬試験 解説講義	講義	滋慶学園統一の模擬試験、解説講義を通じて理解を深める。
15	歯科技工士関係法規 解説講義	講義	歯科技工士関係法規の模擬テスト、解説講義を通じて理解を深める。

科目名 (英)	デジタル歯科技工応用 I	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	若林 誠
	Digital Dental Technology-Advanced II	授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	30	授業回数	15 <th rowspan="2">開講区分</th> <td rowspan="2">前期</td>	開講区分	前期
		単位	1				
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院での実務経験を有する教員が、ゲスト講師を招きデジタル歯科技工に必要な知識や理論についてデモンストレーションを交えて授業を行う。						
目的	歯科用CAD/CAMを使用した最新のデジタル歯科技工についての知識、技術を習得する。						
科目概要	歯科用CAD/CAMについて、基本操作を体験しながら、デジタル歯科技工について理解する。						
到達目標	・クラウンのデザイン～ジルコニア（半焼結体）の削り出しができるようになる。 ・ジルコニアのシタリング（焼結）操作およびステインのテクニクの基本操作ができるようになる。 ・ジルコニアの形態修正～仕上げ研磨までの操作ができるようになる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はG PA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、レポートで行う。講義毎に課すレポートを各100点満点で採点し、その平均点で評価する。各レポートの提出日は開講日に別途指示する。 ☐ 筆記試験 ☐ 口頭試験 ☐ 実技試験 ☐ 論文 ☒ レポート						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	【事前学習】CAD/CAMシステムの種類や特性について調べておくことを推奨する。		
参考図書	CAD/CAMデンタルテクノロジー(医歯薬出版)				【事後学習】授業で学んだ工程やポイントについて、自力で操作できるよう反復練習することを推奨する。		
特記事項	必要に応じてプリントを配布する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	模型製作(下顎臼歯部Br.) 支台歯調整	実習	アナログ技工とデジタル技工の製作工程の違いについて理解する。 CADデザインに必要な支台歯形態について理解する。
2	ブリッジのデザイン	実習	GCアドバシステムを用いて、スキャナからデザインについての操作手順を習得する。 症例に適応したボンティックの形態のデザインについての操作手順を習得する。
3	ブリッジのデザイン ／CAMソフトの使い方	実習	デザインしたブリッジのデータをCAM機にセッティングする方法を理解する。
4	原型完成、比較検証 適合調整～埋没	実習	アナログ技工とデジタル技工の製作工程や製作時間の違いについて理解を深める。 アナログ技工でのブリッジのスプルー植立方法や鑄造について理解する。
5	研磨完成	実習	ブリッジの効率的な研磨手順について理解する。完成物を比較する。
6	インプラントについて	実習	インプラント技工について、基本的な知識を理解する。 インプラントの模型製作について理解する。
7	インプラントについて	実習	インプラント技工について、基本的な知識を理解する。 インプラントの模型製作について理解する。
8	インプラント上部構造のCADデザイン	実習	インプラント上部構造の設計について、CADデザインの手順やポイントを理解する。
9	インプラント上部構造のCADデザイン	実習	インプラント上部構造の設計について、CADデザインの手順やポイントを理解する。
10	インプラントについて(臨床編)	実習	インプラント治療の流れについて、総合的な知識を理解する。
11	光学印象について	実習	光学印象の採得方法および、採得方法について理解する。
12	光学印象採得	実習	光学印象採得を模型上で行う手順を理解する。
13	模型データ加工(CAD)方法	実習	口腔内データの加工方法について理解する
14	CAMへのデータ変換	実習	CAMへのデータ変換方法について理解する。 3Dプリンターでの加工手順について理解する。
15	形態修正 模型完成	実習	模型の仕上げ処理方法について理解する。

科目名 (英)	インターンシップⅢ InternshipⅢ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	若林 誠
		授業形態	講義		有		
		時間数	120	授業回数	60	開講区分	前期
学科・コース	歯科技工士科午後部	単位	4				
講師紹介	本校キャリアセンター協力のもと、大学附属病院での実務経験を有する教員と、各就業体験先と協力し、キャリア形成について学生が積極的に学べる授業を行う。						
目的	実際の歯科臨床現場で学ぶことを通じて、歯科技工士の業務内容への理解を深めることを目的とする。						
科目概要	歯科技工業務の見学及び就業体験を通じて、業界で活躍するための課題を設定し、進路決定の準備を具体的に進めることができる。						
到達目標	・就業体験先にて使用する器具機材を安全に取り扱うことができる。 ・就業体験先において挨拶をはじめとした「身構え」「気構え」「心構え」を身につけることができる。 ・設定した目標に対して、記録し、結果の検証と改善をすることができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はG PA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、レポートで行う。講義毎に課すレポートを各100点満点で採点し、その平均点で評価する。各レポートの提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 ■ レポート						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	【事前学習】臨床実習ノートに目標を記入する。 【事後学習】わからなかった語句や内容は教科書などで調べ、翌日の実習につなげることが必要である。		
参考図書	なし						
特記事項	実習マニュアル						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1, 2	オリエンテーション	実習	配属先、実習内容、インターンシップ中の注意事項
3～10	各就業体験先	実習	各就業体験先で、歯科技工業務を理解し実践する。
11～18	各就業体験先	実習	各就業体験先で、歯科技工業務を理解し実践する。
19～28	各就業体験先	実習	各就業体験先で、歯科技工業務を理解し実践する。
29～37	各就業体験先	実習	各就業体験先で、歯科技工業務を理解し実践する。
38～44	各就業体験先	実習	各就業体験先で、歯科技工業務を理解し実践する。
45～51	各就業体験先	実習	各就業体験先で、歯科技工業務を理解し実践する。
52～60	各就業体験先	実習	各就業体験先で、歯科技工業務を理解し実践する。

科目名 (英)	課題研究実習Ⅱ Research and Professional PlacticeⅡ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	若林 誠
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	60	授業回数	30	開講区分	後期
		単位	2				
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院の実務経験を有する教員が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	今までに修得した知識と技術を結集し、卒業課題研究作品を製作することができる。						
科目概要	卒業後のキャリア形成を踏まえ、既習知識と技術を用いて自ら設定した課題作品を計画的に製作しプレゼンテーションする。						
到達目標	・自ら設定した課題に基づいて、計画的に製作を進め、歯科技工物を完成させることができるようになる。 ・作品についてプレゼンテーション資料を作成し、発表することができるようになる。 ・課題製作を通して、専門知識や技術を深めることができるようになる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はG PA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 「提出作品」と「レポート評価」で総合100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 ■ レポート						
教科書	各専門科目の教科書及び実習帳、ほか			事前事後 学習と その内容	【事前学習】「教科書」、「実習プリント」、「専門書」などを課題に合わせて調べることを推奨する。 【事後学習】取り組んだ実習内容は、指定教科書も併せて学習することを推奨する。		
参考図書	特になし						
特記事項	製作課題については、発表会を行う。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	規定課題実習	実習	指定された時間で既定の課題を行い、製作手順、製作順序の再確認を行う。
2	規定課題実習	実習	指定された時間で既定の課題を行い、製作手順、製作順序の再確認を行う。
3	規定課題実習	実習	指定された時間で既定の課題を行い、製作手順、製作順序の再確認を行う。
4	規定課題実習	実習	指定された時間で既定の課題を行い、製作手順、製作順序の再確認を行う。
5	規定課題実習	実習	指定された時間で既定の課題を行い、製作手順、製作順序の再確認を行う。
6	規定課題実習	実習	指定された時間で既定の課題を行い、製作手順、製作順序の再確認を行う。
7	規定課題実習	実習	指定された時間で既定の課題を行い、製作手順、製作順序の再確認を行う。
8	規定課題実習	実習	指定された時間で既定の課題を行い、製作手順、製作順序の再確認を行う。
9	規定課題実習	実習	指定された時間で既定の課題を行い、製作手順、製作順序の再確認を行う。
10	規定課題実習	実習	指定された時間で既定の課題を行い、製作手順、製作順序の再確認を行う。
11	規定課題実習	実習	指定された時間で既定の課題を行い、製作手順、製作順序の再確認を行う。
12	規定課題実習	実習	指定された時間で既定の課題を行い、製作手順、製作順序の再確認を行う。
13	規定課題実習	実習	指定された時間で既定の課題を行い、製作手順、製作順序の再確認を行う。

14	規定課題実習	実習	指定された時間で既定の課題を行い、製作手順、製作順序の再確認を行う。
15	規定課題実習	実習	指定された時間で既定の課題を行い、製作手順、製作順序の再確認を行う。

16	課題研究作品の製作 Stage4	実習	①Cr.Br: 歯冠色陶材 築盛・焼成 ②PD: レジン床 蝟義歯埋没～、金属床 人工歯排列～ ③FD: 蝟義歯埋没(一次)～ ※各自の計画表を作成すること
17	課題研究作品の製作 Stage4	実習	①Cr.Br: 歯冠色陶材 築盛・焼成 ②PD: レジン床 蝟義歯埋没～、金属床 人工歯排列～歯肉形成 ③FD: 蝟義歯埋没(一次)～
18	課題研究作品の製作 Stage4	実習	①Cr.Br: 歯冠色陶材 築盛・焼成～形態修正 ②PD: レジン床 蝟義歯埋没～流蝟～填入、金属床 人工歯排列～歯肉形成 ③FD: 蝟義歯埋没(二次)～
19	課題研究作品の製作 Stage4	実習	①Cr.Br: 歯冠色陶材 築盛・焼成～形態修正 ②PD: レジン床 蝟義歯埋没～流蝟～填入、金属床 人工歯排列～歯肉形成 ③FD: 蝟義歯埋没(二次)～
20	課題研究作品の製作 Stage4	実習	①Cr.Br: 歯冠色陶材 追加築盛・焼成～形態修正 ②PD: レジン床 重合～掘り出し、金属床 歯肉形成～ ③FD: 蝟義歯埋没 完了
21	課題研究作品の製作 Stage4	実習	①Cr.Br: 歯冠色陶材 追加築盛・焼成～形態修正 ②PD: レジン床 重合～掘り出し、金属床 歯肉形成～埋没 ③FD: 蝟義歯埋没 完了
22	課題研究作品の製作 Stage4	実習	①Cr.Br: 歯冠色陶材 追加築盛・焼成～形態修正 ②PD: レジン床 掘り出し～咬合器再装着、金属床 埋没～重合 ③FD: 重合～掘り出し～咬合器再装着
23	課題研究作品の製作 Stage4	実習	レポート作成
24	課題研究作品の製作 Stage4	実習	レポート作成
25	課題研究作品の製作 Stage4	実習	製作物研磨完成
26	課題研究作品の製作 Stage4	実習	製作物研磨完成
27	課題研究作品の製作 Stage5	実習	レポート作成～仕上げ
28	課題研究作品の製作 Stage5	実習	レポート作成～仕上げ
29	課題研究作品の製作 Stage5	実習	プレゼンテーション
30	課題研究作品の製作 Stage5	実習	プレゼンテーション

科目名 (英)	総合歯科技工学Ⅲ Dental TechnologyⅢ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	若林 誠
		授業形態	講義		有		
		時間数	90	授業回数	45 <th>開講区分</th> <td>後期</td>	開講区分	後期
学科・コース	歯科技工士科午後部	単位	6				
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院での実務経験を有する教員が、その豊富な経験を活かし総合的な歯科技工知識について授業を行う。						
目的	卒業後の歯科技工業務を見据えて専門科目の枠を超え、今までの学びを総合的に復習することを目的とする。						
科目概要	歯科技工士として必要な総合的な基礎力を習得するために専門8科目(有床、修復、矯正、法規、理工、解剖、小児、顎口)の模擬試験および解説講義を行い、歯科技工士国家試験に合格できる力を養う。						
到達目標	・専門科目の枠を超え知識の振り返りをする。 ・問題演習と解説講義を通じて、知識を定着させる。 ・模試B4(統一模試②)において、国家試験合格基準である60%以上の正解を得ることができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はG PA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	新歯科技工士教本(8科目)(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】1年次から使用した教材を読み返し、授業を受けると良い。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	総合講義	講義	習熟度の低い問題を中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
2	総合講義	講義	習熟度の低い問題を中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
3	総合講義	講義	習熟度の低い問題を中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
4	総合講義 (有床義歯技工学・矯正歯科技工学)	講義	有床義歯技工学・矯正歯科技工学について、習熟度の低い問題を中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
5	総合講義 (歯冠修復技工学・歯科技工士関係法規)	講義	歯冠修復技工学・歯科技工士関係法規について、習熟度の低い問題を中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
6	総合講義 (歯科理工学・顎口腔機能学)	講義	歯科理工学・顎口腔機能学について、習熟度の低い問題を中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
7	総合講義 (歯の解剖学・小児歯科技工学)	講義	歯の解剖学・小児歯科技工学について、習熟度の低い問題を中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
8	総合講義 (有床義歯技工学・矯正歯科技工学)	講義	有床義歯技工学・矯正歯科技工学について、習熟度の低い問題を中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
9	総合講義 (歯冠修復技工学・歯科技工士関係法規)	講義	歯冠修復技工学・歯科技工士関係法規について、習熟度の低い問題を中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
10	総合講義 (歯科理工学・顎口腔機能学)	講義	歯科理工学・顎口腔機能学について、習熟度の低い問題を中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
11	総合講義 (歯の解剖学・小児歯科技工学)	講義	歯の解剖学・小児歯科技工学について、習熟度の低い問題を中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
12	総合講義 (有床義歯技工学・矯正歯科技工学)	講義	有床義歯技工学・矯正歯科技工学について、習熟度の低い問題を中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
13	総合講義 (歯冠修復技工学・歯科技工士関係法規)	講義	歯冠修復技工学・歯科技工士関係法規について、習熟度の低い問題を中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
14	総合講義 (歯科理工学・顎口腔機能学)	講義	歯科理工学・顎口腔機能学について、習熟度の低い問題を中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。

15	総合講義 (歯の解剖学・小児歯科技工学)	講義	歯の解剖学・小児歯科技工学について、習熟度の低い問題を中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
----	-------------------------	----	--

16	まとめ講義 (有床義歯技工学)	講義	有床義歯技工学について、まとめ講義を行い練習問題を用いて理解を深める。
17	まとめ講義 (歯冠修復技工学)	講義	歯冠修復技工学について、まとめ講義を行い練習問題を用いて理解を深める。
18	まとめ講義 (矯正歯科技工学・歯科技工士関係法規)	講義	矯正歯科技工学ならびに歯科技工士関係法規について、まとめ講義を行い練習問題を用いて理解を深める。
19	まとめ講義 (歯科理工学)	講義	歯科理工学について、まとめ講義を行い練習問題を用いて理解を深める。
20	まとめ講義 (歯の解剖学)	講義	歯の解剖学について、まとめ講義を行い練習問題を用いて理解を深める。
21	まとめ講義 (小児歯科技工学・顎口腔機能学)	講義	小児歯科技工学ならびに顎口腔機能学について、まとめ講義を行い練習問題を用いて理解を深める。
22	総合講義 (有床義歯技工学)	講義	有床義歯技工学について、習熟度の低い問題を中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
23	総合講義 (歯冠修復技工学)	講義	歯冠修復技工学について、習熟度の低い問題を中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
24	総合講義 (矯正歯科技工学・関係法規)	講義	矯正歯科技工学ならびに関係法規について、習熟度の低い問題を中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
25	総合講義 (歯科理工学)	講義	歯科理工学について、習熟度の低い問題を中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
26	総合講義 (歯の解剖学)	講義	歯の解剖学について、習熟度の低い問題を中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
27	総合講義 (小児歯科技工学・顎口腔機能学)	講義	小児歯科・顎口腔機能学について、習熟度の低い問題を中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
28	まとめ講義 (有床義歯技工学)	講義	有床義歯技工学について、まとめ講義を行い練習問題を用いて理解を深める。
29	まとめ講義 (歯冠修復技工学)	講義	歯冠修復技工学について、まとめ講義を行い練習問題を用いて理解を深める。
30	まとめ講義 (矯正歯科技工学・歯科技工士関係法規)	講義	矯正歯科技工学ならびに歯科技工士関係法規について、まとめ講義を行い練習問題を用いて理解を深める。
31	まとめ講義 (歯科理工学)	講義	歯科理工学について、まとめ講義を行い練習問題を用いて理解を深める。
32	まとめ講義 (歯の解剖学)	講義	歯の解剖学について、まとめ講義を行い練習問題を用いて理解を深める。
33	まとめ講義 (小児歯科技工学・顎口腔機能学)	講義	小児歯科技工学ならびに顎口腔機能学について、まとめ講義を行い練習問題を用いて理解を深める。
34	総合講義 (有床義歯技工学)	講義	有床義歯技工学について、習熟度の低い問題を中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
35	総合講義 (歯冠修復技工学)	講義	歯冠修復技工学について、習熟度の低い問題を中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
36	総合講義 (矯正歯科技工学・関係法規)	講義	矯正歯科技工学ならびに関係法規について、習熟度の低い問題を中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
37	総合講義 (歯科理工学)	講義	歯科理工学について、習熟度の低い問題を中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。

38	総合講義 (歯の解剖学)	講義	歯の解剖学について、習熟度の低い問題を中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
39	総合講義 (小児歯科技工学・顎口腔機能学)	講義	小児歯科・顎口腔機能学について、習熟度の低い問題を中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
40	総合講義 (有床義歯技工学)	講義	有床義歯技工学について、習熟度の低い問題を中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
41	総合講義 (歯冠修復技工学)	講義	歯冠修復技工学について、習熟度の低い問題を中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
42	総合講義 (矯正歯科技工学・関係法規)	講義	矯正歯科技工学ならびに関係法規について、習熟度の低い問題を中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
43	総合講義 (歯科理工学)	講義	歯科理工学について、習熟度の低い問題を中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
44	総合講義 (歯の解剖学)	講義	歯の解剖学について、習熟度の低い問題を中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。
45	総合講義 (小児歯科技工学・顎口腔機能学)	講義	小児歯科技工学ならびに顎口腔機能学について、習熟度の低い問題を中心に図や写真を用いて講義を行う。さらに練習問題を用いて理解を深める。

科目名 (英)	歯科技工総合実習Ⅲ Training of Dental TechnologyⅢ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	若林 誠
		授業形態	実習		有		
		時間数	120	授業回数	60	開講区分	
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	単位	4				後期
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、での実務経験を有した経験豊富な教員が、臨床事例と関連づけて、歯のデッサン、歯型彫刻、ワイヤー屈曲について指導する。						
目的	卒業後の歯科技工業務を見据えて専門科目の枠を超え、今までの学びを総合的に復習することを目的とする。						
科目概要	「歯のデッサン」「ワイヤー屈曲」「歯型彫刻」の実習トレーニングを行う。実習作品は、評価表を用いた自己チェックやフィードバックを受けることにより、実力を確認し今後の課題を理解する。						
到達目標	指定された歯のデッサン、ワイヤー屈曲、歯型彫刻の作品を、決められた時間内で合格基準以上に完成させることができるようになる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はG PA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 「実技試験」で総合100点満点とする。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	配布資料 歯の解剖学 実習プリント(オリジナル)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】歯型彫刻・ワイヤー屈曲の項目の「実習プリント」を読み、製作工程および注意事項について確認しておくことを推奨する。 【事後学習】取り組んだ実習内容は、指定教科書も併せて学習することを推奨する。		
参考図書	配布資料 有床義歯技工学 実習プリント(オリジナル)						
特記事項	制限時間内で課題が完成できない場合は、自主的に練習をすること。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	ワイヤー屈曲トレーニング①	実習	ワイヤー屈曲のトレーニングを行う。トレーニング後は、評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
2	ワイヤー屈曲トレーニング②	実習	ワイヤー屈曲のトレーニングを行う。トレーニング後は、評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
3	トレーニング① 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
4	トレーニング② 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
5	トレーニング③ 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
6	トレーニング④ 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
7	トレーニング⑤ 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
8	トレーニング⑥ 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
9	課題製作-1 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	課題: 90分で歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻を行う。 この実習で提出された作品は卒業判定試験①として成績評価する。 製作後は、見本や評価表を用いた自己チェック、採点担当者による総評ならびにフィードバックを行う。
10	課題製作-1 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	
11	課題製作-2 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	課題: 90分で歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻を行う。 この実習で提出された作品は卒業判定試験①として成績評価する。 製作後は、見本や評価表を用いた自己チェック、採点担当者による総評ならびにフィードバックを行う。
12	課題製作-2 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	
13	トレーニング⑦ 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。

14	課題製作-3 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	課題:90分で歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻を行う。 この実習で提出された作品はブレ国家試験(実地)として成績評価する。 製作後は、見本や評価表を用いた自己チェック、採点担当者による総評ならびにフィードバックを行う。
15	課題製作-3 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	

[illegible]

37	トレーニング⑤ 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
38	トレーニング⑥ 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
39	課題製作-1 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	課題: 90分で歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻を行う。 この実習で提出された作品は卒業判定試験①として成績評価する。 製作後は、見本や評価表を用いた自己チェック、採点担当者による総評ならびにフィードバックを行う。
40	課題製作-1 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	
41	課題製作-2 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	課題: 90分で歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻を行う。 この実習で提出された作品は卒業判定試験①として成績評価する。 製作後は、見本や評価表を用いた自己チェック、採点担当者による総評ならびにフィードバックを行う。
42	課題製作-2 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	
43	トレーニング⑦ 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
44	課題製作-3 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	課題: 90分で歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻を行う。 この実習で提出された作品はプレ国家試験(実地)として成績評価する。 製作後は、見本や評価表を用いた自己チェック、採点担当者による総評ならびにフィードバックを行う。
45	課題製作-3 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	

46	ワイヤー屈曲トレーニング①	実習	ワイヤー屈曲のトレーニングを行う。トレーニング後は、評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
47	ワイヤー屈曲トレーニング②	実習	ワイヤー屈曲のトレーニングを行う。トレーニング後は、評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
48	トレーニング① 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよびや教員によるフィードバックを行う。
49	トレーニング② 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよびや教員によるフィードバックを行う。
50	トレーニング③ 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよびや教員によるフィードバックを行う。
51	トレーニング④ 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよびや教員によるフィードバックを行う。
52	トレーニング⑤ 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよびや教員によるフィードバックを行う。
53	トレーニング⑥ 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよびや教員によるフィードバックを行う。
54	課題製作-1 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	課題：90分で歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻を行う。 この実習で提出された作品は卒業判定試験①として成績評価する。 製作後は、見本や評価表を用いた自己チェック、採点担当者による総評ならびにフィードバックを行う。
55	課題製作-1 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	
56	課題製作-2 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	課題：90分で歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻を行う。 この実習で提出された作品は卒業判定試験①として成績評価する。 製作後は、見本や評価表を用いた自己チェック、採点担当者による総評ならびにフィードバックを行う。
57	課題製作-2 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	
58	トレーニング⑦ 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよびや教員によるフィードバックを行う。
59	課題製作-3 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	課題：90分で歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻を行う。 この実習で提出された作品はブレ国家試験(実地)として成績評価する。 製作後は、見本や評価表を用いた自己チェック、採点担当者による総評ならびにフィードバックを行う。
60	課題製作-3 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	

科目名 (英)	デジタル歯科技工応用Ⅱ Digital Dental Technology-AdvancedⅡ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	若林 誠
		授業形態	実習		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	
学科・コース	歯科技工士科午後部	単位	1				
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院での実務経験を有する教員が、ゲスト講師を招きデジタル歯科技工に必要な知識や理論についてデモンストレーションを交えて授業を行う。						
目的	歯科用CAD/CAMを使用した最新のデジタル歯科技工についての知識、技術を習得する。 ジルコニアを用いた技工物の製作手順および取り扱いについて習得する。						
科目概要	歯科用CAD/CAMについて、基本操作を体験しながら、デジタル歯科技工について理解する。						
到達目標	・クラウンのデザイン～ジルコニア(半焼結体)の削り出しができるようになる。 ・ジルコニアのシンタリング(焼結)操作およびステインのテクニクの基本操作ができるようになる。 ・ジルコニアの形態修正～仕上げ研磨までの操作ができるようになる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はG PA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、レポートで行う。講義毎に課すレポートを各100点満点で採点し、その平均点で評価する。各レポートの提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 ■ レポート						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	【事前学習】CAD/CAMシステムの種類や特性について調べておくことを推奨する。		
参考図書	CAD/CAMデンタルテクノロジー(医歯薬出版)				【事後学習】授業で学んだ工程やポイントについて、自力で操作できるよう反復練習することを推奨する。		
特記事項	必要に応じてプリントを配布する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	デジタルデンティストリー	実習	アナログ技工とデジタル技工の診療手順や材料の違い、歯科技工で使用されるCAD/CAMや3Dプリンターについての概要と操作手順を理解する。
2	クラウンのデザインー① ／スキャナの使い方	実習	GCアドバシステムを用いて、スキャナからデザインについての操作手順を習得する。
3	クラウンのデザインー②	実習	GCアドバシステムを用いて、スキャナからデザインについての操作手順を習得する。
4	クラウンのデザインー③ ／CAMソフトの使い方	実習	GCアドバシステムを用いて、スキャナからデザインについての操作手順を習得する。
5	クラウンのデザイン 復習ー①	実習	前回までの学習内容をもとに、自力でクラウンのデザイン～CAMデータ変換までできるように復習(マニュアル作成)する。
6	クラウンのデザイン 復習ー②	実習	前回までの学習内容をもとに、自力でクラウンのデザイン～CAMデータ変換までできるように復習(マニュアル作成)する。
7	ジルコニアクラウンのデザインー①	実習	ジルコニアを想定したクラウンの製作について、スキャンからデザインの工程を理解する。
8	ジルコニアデザインのデザインー② ／CAMソフトの使い方	実習	デザインしたクラウンのデータをCAM機にセッティングする方法を理解する。
9	CAM加工(切削)～形態修正	実習	CAM加工されたジルコニアの半焼結体を形態修正する研磨材の選択および手順について理解できる。
10	形態修正～ステイン浸透	実習	ジルコニアの半焼結体を着色(ステイン)する方法が理解できる。 天然歯の特徴に合わせたステインの選択方法について理解できる。
11	シンタリング(焼結)	実習	シンタリング(焼結)のセッティング方法と焼結スケジュールについて理解できる。 焼結スケジュールについて理解できる。
12	適合～接触点調整	実習	歯型への適合方法について理解できる。 咬合と接触点の調整手順について理解できる。
13	修正(追加焼成)	実習	ジルコニアの追加焼成方法について理解できる。 修正部分の調整方法について理解できる。
14	修正(追加焼成)	実習	ジルコニアの追加焼成方法について理解できる。 修正部分の調整方法について理解できる。
15	艶出し(グレース)完成 比較検証	実習	グレースの焼成スケジュールについて理解できる。 ポーセレン操作との違いについて検証し理解を深めることができる。